

牧野(淀川上流)探鳥会 2016年9月度

2016.9.4 (第1日曜日)9:00~14:00 日本野鳥の会大阪支部

担当 南 茂夫、高井 常之、前田 初雄、甲田 照二、斎藤 健、西脇 淳浩、平 軍二(☎090-6901-1425)

9月、残暑厳しい中で鳥の世界は秋、淀川河川敷の樹林で秋の渡り鳥が観察できます。

1. 先月8月は「ツバメのねぐら入り観察会」

鶺鴒のツバメのねぐら場所が昨年と異なったため、数百m下流の砂場での観察となった。ツバメが目前の頭上で飛びながら鳴き交わすのを観察し、双眼鏡では鶺鴒上空を飛ぶ無数のツバメの群舞を楽しんだ。終了後は定番のカラスウリの開花、ねぐら入り前のつぼみが、帰りにレースを広げているのを確認した。更には下流淀川の花火、東側の奈良県生駒市の花火を遠望、西の空に三日月、南天に火星と夜空も楽しんだ。観察会案内をネットで見てくださっているのでしょうか、定例会に参加されたことのある方はリーダー以外に数人、3/4の方は探鳥会初めてor 牧野初めての方でした。本部提供の野鳥誌やツバメマップをお配りしたこともあり、大満足のひと時を過ごしていただいたと思われる。



2. 今月は秋の渡り鳥・キビタキ 牧野探鳥会コースの楽しみは河川敷の樹林に休む小鳥たち、日本国内各地で繁殖子育てを終えた夏鳥が越冬地に向け移動する秋の渡りが始まっている。今月は何が観察できるか



キビタキ(齊藤博氏)

楽しみですが、**期待しているキビタキ**を紹介します。

キビタキは牧野からすぐの交野市くろんど園地・ほしだ園地などで繁殖子育てをしています。淀川河川敷で休んでいるのはもっと北で子育てを終えた個体かと思えます。秋の渡り時はさえざりがなく見つけにくいのですが、ヒタキ特有の

フライキャッチを見せてくれるので、

一度姿を見つけると割合良く見えるようになります。探鳥会では磯島グランドより南側のセンダン林が、春秋の渡り鳥や冬鳥の休憩地となっていて、樹林が密生しておらず空間が多いことから小鳥が良く観察できます。

今日はキビタキなどヒタキの仲間を期待していますが、どうでしょうか。

3. 自転車に注意 牧野探鳥会には他の探鳥地に比べ鳥が多いけれども、探鳥コースに「**トイレが無い・自転車が危ない**」の二重苦が、アキレス腱になっています。特にサイクリング車が一日数百台、猛スピードでひっきりなしで、ぶつかるど怪我をして痛い目に合うのはバードウォッチャーです。

前後左右に目を配り、「自転車から自分を守る」ようお願いします。

尚、先月ツバメのねぐらは夕方方の観察会でしたが、サイクリング車が何台も通過しました。バードウォッチャーよりも利用時間範囲が広く、利用人数も圧倒的に多いことがわかりました。

4. 次回10月2日(日)9:00~14:00

来月は秋の渡りの最盛期、牧野探鳥会にはノビタキを見るコースに若干変更する予定です。楽しみに参加してくださいよう、お待ちしております。

